

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	一般廃棄物を泉南清掃事務組合にて、適正処理することで最終処分量を削減し、循環型社会に取り組み、環境保全及び公衆衛生を確保する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	ごみ搬入量の減少に伴い焼却量も減少している。しかし、粗大ごみの手選別スクラップ(細分化)により資源化量は微増となっている。引き続き、ごみの減量化と資源化に取り組む。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	市民・事業者には、廃棄物の発生抑制と分別排出の徹底を促進し、搬入された廃棄物を適正に処理する。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	一般廃棄物の処理と焼却熱を利用した温水プールの運営を行っている泉南清掃事務組合(泉南市・阪南市の2市で運営)に負担金事業として支出している。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	一般廃棄物を適正に処理するためには継続すべき事業である。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	A	一般廃棄物を適正に処理することができている。引き続き、ごみ減量化と資源化に取り組む。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	分別徹底の周知を図り、小型充電式電池など可燃ごみ、資源ごみへの混入防止に努める。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	泉南清掃事務組合(ごみ焼却施設)あり方について検討を行う。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	ごみ焼却施設の老朽化に伴い、新炉建設に向けた検討。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	ごみの搬入と焼却、及び再資源化について、ごみ廃棄物の適正処理に向けた取組が適切に行われている。 ごみ焼却施設の老朽化対策については大きな経費が見込まれることから、幅広い可能性を検討のうえ計画的に進められたい。	